

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073600423		
法人名	医療法人 聖恵会		
事業所名	グループホーム安居		
所在地	福岡県古賀市鹿部485-1 (電話)092-942-6363		
自己評価作成日	令和4年11月17日	評価結果確定日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設し18年を迎えました。入居者様の重症化も進む中、木のぬくもりを感じられる建物、緑豊かな環境の中で穏やかに過ごしていただいています。新型コロナ感染が流行し3年になりますがスタッフ、一人一人の強い感染予防意識でホーム内に一度も持ち込むことなく、経過しています。外出行事ができない状況ですが同一敷地内にたくさんの桜やあじさいなど四季折々の花が咲き、中庭での家庭菜園、紅葉などで四季の変化を楽しんでいただいています。また、ホーム内での活動にも工夫を凝らし良い刺激となっています。ユマニチュード技法を用いた介助により尊厳のある生活を送れるよう支援しています。また、母体病院が敷地内にあり常に連携がとれることで入居者様、ご家族様にも安心していただいています。夜勤スタッフの安心にも繋がりをより良い支援ができています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和4年12月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成17年に開設された平屋建ての2ユニットの事業所で、JRの最寄り駅から車で数分の国道沿いに位置している。母体法人は佛教の慈悲の精神に基づき、地域の医療、福祉に精進している医療機関である。敷地内は、遊歩道等が整備され、四季折々の自然を感じられる緑がある。建物は、木のぬくもりが感じられ、照明は暖色系を使用する等、利用者が落ち着いて過ごせるように配慮されている。職員はチームワークを大切にし、利用者一人ひとりのケアに心がけている。手作りの食事にこだわり、入浴は毎日実施している。また、同敷地の病院と連携や事業所内に看護師を配置し、日頃の健康管理や看取り介護を手厚く行い、隣接の病院とともに職員教育にも熱心に取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で勤務職員全員で理念の唱和を行っている。事業所内での年間教育に理念について学ぶ機会がある。毎年、理念に添った年間目標を立て、実践できている。	法人理念の下、事業所の理念や方針を定めている。職員は朝礼時に理念を唱和し、利用者が事業所の理念である「家族の温もり、明日への希望。安心と安全」を感じられるように日々尽力している。また、地域に根ざしたホーム作りが方針の一つとされ、公民館や地区の福祉会、子ども会等と交流を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子ども会との交流や公民館活動に参加できていたが、新型コロナウイルスが流行してからは参加できていない。	コロナ禍のため、地域行事への参加や事業所のイベントへの地域の方々の参加の機会は中止が続いているが、近隣の方がそうめん流しのための竹を切って持参してくれたり、保育園児からメッセージのやり取り等、付き合いが絶えないようにしている。コロナが落ち着けば、以前のように校区の運動会や公民館での行事に参加したり、事業所内での納涼会への呼びかけ等を計画している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で介護予防教室の開催や市民向け認知症講座で認知症の方への接し方やグループホームの特性など紹介している。コロナ前は地域の中学生の職場体験も受け入れていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告はその時の様子が分かりやすいように写真を準備し、報告している。ヒヤリハット報告も行い、話し合いや意見をもらったりしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。構成員は利用者や家族のほか、区長、福祉委員、市介護支援課職員、地域包括支援センター職員である。運営状況の報告のほか、地域防災訓練への参加、コロナ禍における子ども会との付き合い方等について意見交換を行っている。議事録は事業所内に備え付け、職員間で共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回の運営推進会議に参加してもらい、ケアサービスの取り組みやヒヤリハット報告など伝えている。質問などある時には電話にて尋ねたりしている。	日頃から行政へ運営に関する報告や相談を電話やメールで行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。行政からの研修の案内やアンケート調査等の依頼がある際は積極的に回答し、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲示している。事業所内の年間教育計画に身体拘束について学習する機会がある。安全上、ご家族の了解をもらい、玄関の施錠だけは行っている。	身体拘束ゼロ宣言をしている。事業所周辺に交通量の多い国道があるため、家族等へ説明し、同意を得て利用者の安全のため玄関を施錠している。外出希望の際は職員が必ず付き添うようにしている。隣接病院と共同で行動制限最小化委員会を設けており、拘束のないように毎月検討している。	行動制限最小化委員会や運営推進会議を活用しながら、少しずつでも玄関を開錠する時間を作ってほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内の年間教育計画に虐待防止について学ぶ機会がある。アンダーマネージメントも全スタッフで学び、言葉かけなどにも注意している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の年間教育計画に成年後見制度について学ぶ機会がある。以前、成年後見制度を利用しての方を支援していた。	制度に関するパンフレットを玄関に設置し、契約時や必要時にパンフレットを用いて説明している。年1回、職員が権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けており、研修記録を残している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの時点で見学や料金等の説明を行い、契約時に改めて理解、納得されるまで丁寧に説明している。また、質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加や面会の時等に意見を頂き、スタッフで共有している。また、満足度調査も毎年行い、結果を部署に掲示している。改善点はスタッフで共有し、改善に向けて取り組んでいる。	利用者が日常的に意見や思いを管理者や職員に伝えられる機会があり、日頃の支援に繋げている。利用者の意見を取り入れながら菜園に植える野菜を決めている。また、窓越しやりモートでの面会の際に家族の意見を聴くようにしている。コロナ禍前はバーベキュー等の機会を設けていたが、日々の暮らしをDVDにまとめてお知らせする等、家族の意見を運営に反映させるよう工夫している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にコミュニケーションをとり、いつでも管理者に相談できる。定期的な個人面談も行っている。また、全体カンファレンス時にも意見交換を行い、運営に反映させている。	年2回、個別面談の機会を設けて、職員の意見を聴くようにしている。また、毎月、全体カンファレンスで、利用者の介護方法や業務内容について検討し、職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に得意分野が発揮できるように係を決めたり、法人ではラダー制度があり、給料に反映され、やりがいへと繋げている。アニバーサリー休暇も取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢を問わず幅広い年齢層の採用があり、定年後も継続して働くことができる。得意分野が発揮できる様に係り決めをしている。資格取得に向けて研修等を受けているスタッフがいる。公休など柔軟に対応している。	性別や年齢を問わず採用している。隣接病院と共同で研修を実施したり、資格取得のための支援を行っている。また、人材育成やワークライフバランスを大切に、職員がスキルアップしながら生き生き働けるように努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体でユマニチュード技法の取り組みに力を入れて学習し、尊厳のあるケアに努めている。事業所内の年間教育計画にも人権に関する研修があり、全スタッフで学んでいる。	隣接病院と共同で年間計画に基づいて職員研修を行っており、利用者に対する人権を尊重するために人権教育に取り組んでいる。その他の研修等でも、折に触れて人権について理解を深められるように努めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を希望するスタッフには参加できるよう配慮している。法人内の研修にも参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前には頻りにグループホーム協議会などネットワークの活動ができていたが、コロナ後はできていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みに来られた際に見学などしていただき、ご家族から生活の状況などの把握に努めている。また、ご本人様に直接会える時には事前に不安な事、要望などを聞き本人の安心を確保するための関係作りにも努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族様に困っている事や不安な事など聞き、プランに反映している。こちらから声をかけて話しやすい雰囲気をつくるなど良好な関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を対話やアセスメントで引き出し、優先順位を見極めている。必要に応じ、介護用品の提案など行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒にたたんでいただいたり、調理の下ごしらえなど出来る事は一緒にしていただき、共に過ごし、役割のある生活ができるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時や電話、また、安居だよりなどで状況を伝え、対応に困った時などはアドバイスをもらうなど共に本人を支える支援者として関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが流行してから外出は出来ていない。面会はタブレットを使ったり、中庭と建物内で窓を挟んで行っている。	センター方式を用いて利用者の馴染みの関係について把握し、入居後も日々の関わりの中で新たな情報を追加していくようにしている。携帯電話を持たれている利用者については、友人との連絡を取り持つ等の支援を行っている。コロナ禍で外出は減少したが、利用者が馴染みの人などとの関係を継続できるよう積極的に働きかけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席の配置を考え、孤立しないよう配慮している。話題の提供や一緒に楽しめるレクリエーションの提供など入居者同士が関わりあえるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へ面会に行ったり、ご家族が近くに来たからと立ち寄りられたり、退去後の関係性も大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	レクリエーションの参加や活動の参加など無理な参加は求めず、ご本人様の意向を尊重している。日常会話の中から思いや希望を聞き取り、意向の把握に努めている。困難な場合にはご家族と相談している。	入居時にセンター方式を活用して利用者の思いや意向を把握している。入居後も利用者や家族との交流の中で新たに知り得た情報を記録し、職員間で共有している。また、職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いや希望の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ご家族様にも協力してもらい、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、記録や口頭での伝達申し送りなどで情報を共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望など聞き取りケアに取り入れている。看護師の意見を聞いたり、スタッフ間で話し合っている。排泄状況のモニタリングなど詳細な項目に取り組むこともある。	日頃から家族に利用者の生活の様子を伝え、家族の思いや意見、職員や医師の意見を反映させた介護計画を作成している。3ヶ月に1回、または必要に応じて、介護計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子やケアの内容、反応など記録し共有している。担当スタッフが毎月、モニタリングチェック表を使用し、ケアプランの評価を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況を把握し、その時々ニーズに合ったサービスが提供できるよう、柔軟な対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが流行してから地域の子供達とのふれ合いなどできていない。ボランティアの受け入れなどもできていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、かかりつけ医の説明をしている。専門医の受診はご家族の協力を得ながら行っている。必要に応じスタッフが同行することもあり、適切な医療を受けられる支援している。	契約時、利用者や家族に受診に係る希望等を確認し、隣接病院や希望する医療機関による受診を支援している。家族と受診時の通院介助の方法や情報の伝達方法について話し合い、適切な医療につながるよう支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているため、変化や気づきをすぐに報告、相談ができる。必要に応じ、母体病院との連携を図り、受診へと繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には情報提供書を提供し、情報交換を図っている。入院中にも訪問したり、カンファレンスに参加するなど安心して治療していただけるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対する体制を契約時にも説明をしている。重度化した場合や終末期への検討が必要な時には、早期にご家族と主治医との面談を設け、ご本人、ご家族の意思を尊重した方針を共有し、支援に取り組んでいる。	契約時に、利用者が重度化した場合の過ごし方やケアの内容について家族等に説明し、同意を得ている。また、状態変化に応じて、関係者が再度協議し、適宜方針を共有して支援に取り組んでいる。毎年、職員は看取りケアについて勉強会で学んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修に参加したり、事業所内の年間教育計画でも研修をし、身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での防災訓練と事業所の防災訓練を年2回実施している。事業所の年間教育計画でも災害時の対応についての研修を行っている。	火災、土砂災害、風水害、地震に向けた避難計画を整備し、訓練を行っている。地域住民に呼びかけは行っていない。食料や飲料水等は法人本部で、生活用品や防寒用品等は事業所で保管しているが、今後、食料品等も事業所管理へ向けて整備を進めていく予定である。	避難訓練を実施する際は地域住民への呼びかけを行ってほしい。また、事業所内にも食料品や飲料水等の保管がなされることを期待する。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人、一人がユマニチュード技法を用いたケアの実践、人格を尊重した言葉かけを心掛けている。事業所内の年間教育計画でも研修を行っている。	毎年、職員はプライバシーの保護について勉強会で学んでいる。勉強会では総論をはじめ、介護現場のプライバシー問題についても取り扱っている。管理者は利用者に関する情報の取り扱いについて配慮するように常に職員に話している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中でご本人の思いに寄り添い、適切な声かけを行い、自己決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にし、無理なく生活できるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には衣服の選択をさせていただいている。アクセサリーもご自分で選んで身に付けられ、おしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえと一緒にしてもらいながら、調理の工程を話題にしたりしている。おやつと一緒に作ったりして食事が楽しみになるよう援助している。	献立は法人で決められているが、食材の購入や調理は3食とも事業所で行っている。各ユニットに調理専門の職員が配置されており、職員は利用者と一緒に下ごしらえや片付けを一緒に行い、月に6回ほど、一緒におやつ作りをしている。調理時の匂いや音が漂い、食事が楽しみなものになるよう、調理場は事業所の中央に配置されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士の献立でバランスの取れた食事の提供を行っている。食事や水分摂取量を記録し、共有している。体重増加や摂取困難時には主治医に相談するなど個別支援をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、本人に合った方法でケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを排泄表やモニタリングを行うなどし把握している。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。排泄時の一連の動作など出来る限りご本人にさせていただき、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用いて利用者一人ひとりのサインを把握し、さりげなく支援している。おむつやパット類を使用する際は、利用者一人ひとりについて常に見直し、家族の同意を得て取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便の有無を確認し、運動の提供、水分補給にて排便を促すよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴を行い、体調や希望に添って入浴できるよう支援している。湯船には入りたくない方など個々に合った入浴方法で入浴できるよう配慮している。	風呂は毎日湧かし、週3日の入浴を提供しているが、希望に応じて毎日入浴することも可能である。入浴を望まない利用者には、言葉かけや対応の工夫により一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。浴槽は木製で、木の匂いが漂い、窓の外は竹の塀に囲われた中庭で、温泉宿の露天風呂気分を味わうことができる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて午睡を取り入れたり、身体状況に合わせても臥床を取り入れている。また、日中は積極的に活動を提供し、夜間安眠できる様、支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について把握しマニュアルに添った服薬介助を行っている。変更がある時には看護師から口頭説明、看護連絡ノートでの説明を行い、全スタッフが理解できるようにしている。また、必要の無い薬の検討も看護師と相談し、主治医へと繋げている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別外出など出来ない状況だが、中庭での家庭菜園やおやつ作りなど楽しみをもって生活できるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や敷地内の散歩を行い、気分転換を図っている。コロナ前には外出行事を多く行っていたが、今は難しい状況にある。	コロナ禍のため、病院受診以外の外出は控えているが、法人敷地内には季節の花々を眺めながら散策できる遊歩道が整備されているため、体調や天候に合わせて遊歩道や敷地内を散策している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中からご本人の必要物品が購入できるよう配慮している。コロナ前には外出時の買い物ではご自身で支払ってもらっていたが、今は難しい状況にある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話ができるように支援している。ご家族様からかかってきた時には取次ぎ、会話を楽しんでもらっている。家族へハガキを送ったり、家族から届いたハガキの返事を書いてもらったりと、やり取りができる様、支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや匂い、温度など不快と感ずるものを排除し、快適に生活が送れるよう努めている。トイレや居室など混乱を起こさないよう分かりやすく表示している。花や季節の制作物などを展示し、ゆっくりとくつろげる空間を提供している。	廊下の天井は高く、排煙用の窓から陽射しが差し込む等、共用空間は家庭的かつ居心地の良い空間作りの工夫があり、落ち着いた雰囲気となっている。食堂は中庭に面しており、食堂から中庭には自由に行き来できる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席、ソファ、和室があり、一人になれる空間も、入居者様同士が仲良く会話できる空間も作っている。和室で横になれたり、ご自分の席で外を眺めたり、ゆっくりと過ごしていただける環境作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等、昔から使い慣れた物を使用している。居室にご主人の位牌や写真を飾られたり、テレビやご家族の写真を貼るなど、居心地良く過ごせる様になっている。	利用者の身体状況に合わせたベッド、エアコン、換気扇、クローゼット、洗面台が各居室に用意されている。居室のドアは板の引き戸になっており、車椅子利用者の出入りもしやすい。利用者の馴染みの物も持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等、分かりやすく表示し、リビング、廊下、浴室、トイレなどに手すりが設置され、安全に生活が送れるよう配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で勤務職員全員で理念の唱和を行っている。事業所内での年間教育に理念について学ぶ機会がある。毎年、理念に添った年間目標を立て、実践できている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子ども会との交流や公民館活動に参加できていたが、新型コロナウイルスが流行してからは参加できていない。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で介護予防教室の開催や市民向け認知症講座で認知症の方への接し方やグループホームの特性など紹介している。コロナ前は地域の中学生の職場体験も受け入れていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告はその時の様子が分かりやすいように写真を準備し、報告している。ヒヤリハット報告も行き、話し合いや意見をもらったりしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回の運営推進会議に参加してもらい、ケアサービスの取り組みやヒヤリハット報告など伝えている。質問などある時には電話にて尋ねたりしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲示している。事業所内の年間教育計画に身体拘束について学習する機会がある。安全上、ご家族の了解をもらい、玄関の施錠だけは行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内の年間教育計画に虐待防止について学ぶ機会がある。アンガーマネジメントも全スタッフで学び、言葉かけなどにも注意している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の年間教育計画に成年後見制度について学ぶ機会がある。以前、成年後見制度を利用している方を支援していた。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの時点で見学や料金等の説明を行い、契約時に改めて理解、納得されるまで丁寧に説明している。また、質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加や面会の時等に意見を頂き、スタッフで共有している。また、満足度調査も毎年行い、結果を部署に掲示している。改善点はスタッフで共有し、改善に向けて取り組んでいる。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にコミュニケーションをとり、いつでも管理者に相談できる。定期的な個人面談も行っている。また、全体カンファレンス時にも意見交換を行い、運営に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に得意分野が発揮できるように係を決めたり、法人ではラダー制度があり、給料に反映され、やりがいへと繋げている。アニバーサリー休暇も取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢を問わずに幅広い年齢層の採用があり、定年後も継続して働くことができる。得意分野が発揮できる様に係り決めをしている。資格取得に向けて研修等を受けているスタッフがいる。公休など柔軟に対応している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体でユマニチュード技法の取り組みに力を入れて学習し、尊厳のあるケアに努めている。事業所内の年間教育計画にも人権に関する研修があり、全スタッフで学んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を希望するスタッフには参加できるように配慮している。法人内の研修にも参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前には頻りにグループホーム協議会などネットワークの活動ができていたが、コロナ後はできていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みに来られた際に見学などしていただき、ご家族から生活の状況などの把握に努めている。また、ご本人様に直接会える時には事前に不安な事、要望などを聞き本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族様に困っている事や不安な事など聞き、プランに反映している。こちらから声をかけて話しやすい雰囲気をつくるなど良好な関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を対話やアセスメントで引き出し、優先順位を見極めている。必要に応じ、介護用品の提案など行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒にたたんでいただいたり、調理の下ごしらえなど出来る事は一緒にしていただき、共に過ごし、役割のある生活ができるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時や電話、また、安居だよりなどで状況を伝え、対応に困った時などはアドバイスをもらうなど共に本人を支える支援者として関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが流行してから外出は出来ない。面会はタブレットを使ったり、中庭と建物内で窓を挟んで行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席の配置を考え、孤立しないよう配慮している。話題の提供や一緒に楽しめるレクリエーションの提供など入居者同士が関わりあえるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へ面会に行ったり、ご家族が近くに来たからと立ち寄られたり、退去後の関係性も大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	レクリエーションの参加や活動の参加など無理な参加は求めず、ご本人様の意向を尊重している。日常会話の中から思いや希望を聞き取り、意向の把握に努めている。困難な場合にはご家族と相談している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ご家族様にも協力してもらい、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、記録や口頭での伝達申し送りなどで情報を共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望など聞き取りケアに取り入れている。看護師の意見を聞いたり、スタッフ間で話し合っている。排泄状況のモニタリングなど詳細な項目に取り組むこともある。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子やケアの内容、反応など記録し共有している。担当スタッフが毎月、モニタリングチェック表を使用し、ケアプランの評価を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況を把握し、その時々ニーズに合ったサービスが提供できるよう、柔軟な対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが流行してから地域の子供達とのふれ合いなどできていない。ボランティアの受け入れなどもできていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、かかりつけ医の説明をしている。専門医の受診はご家族の協力を得ながら行っている。必要に応じスタッフが同行することもあり、適切な医療を受けられる支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているため、変化や気づきをすぐに報告、相談ができる。必要に応じ、母体病院との連携を図り、受診へと繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には情報提供書を提供し、情報交換を図っている。入院中にも訪問したり、カンファレンスに参加するなど安心して治療していただけるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対する体制を契約時にも説明をしている。重度化した場合や終末期への検討が必要な時には、早期にご家族と主治医との面談を設け、ご本人、ご家族の意思を尊重した方針を共有し、支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修に参加したり、事業所内の年間教育計画でも研修をし、身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での防災訓練と事業所の防災訓練を年2回実施している。事業所の年間教育計画でも災害時の対応についての研修を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人、一人がユマニチュード技法を用いたケアの実践、人格を尊重した言葉かけを心掛けている。事業所内の年間教育計画でも研修を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中でご本人の思いに寄り添い、適切な声かけを行い、自己決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にし、無理なく生活できるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には衣服の選択をいただいている。アクセサリもご自分で選んで身に付けられ、おしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえを一緒にしてもらいながら、調理の工程を話題にしたりしている。おやつと一緒に作ったりして食事が楽しみになるよう援助している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士の献立でバランスの取れた食事の提供を行っている。食事や水分摂取量を記録し、共有している。体重増加や摂取困難時には主治医に相談するなど個別支援をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、本人に合った方法でケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを排泄表やモニタリングを行うなど把握している。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。排泄時の一連の動作など出来る限りご本人にしていただき、自立に向けた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便の有無を確認し、運動の提供、水分補給にて排便を促すよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴を行い、体調や希望に添って入浴できるよう支援している。湯船には入りたくない方など個々に合った入浴方法で入浴できるよう配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて午睡を取り入れたり、身体状況に合わせても臥床を取り入れている。また、日中は積極的に活動を提供し、夜間安眠できる様、支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について把握しマニュアルに添った服薬介助を行っている。変更がある時には看護師から口頭説明、看護連絡ノートでの説明を行い、全スタッフが理解できるようにしている。また、必要の無い薬の検討も看護師と相談し、主治医へと繋げている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別外出など出来ない状況だが、中庭での家庭菜園やおやつ作りなど楽しみをもって生活できるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や敷地内の散歩を行い、気分転換を図っている。コロナ前には外出行事を多く行っていたが、今は難しい状況にある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中からご本人の必要物品が購入できるよう配慮している。コロナ前には外出時の買い物ではご自身で支払ってもらっていたが、今は難しい状況にある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話ができるように支援している。ご家族様からかかってきた時には取次ぎ、会話を楽しんでもらっている。家族へハガキを送ったり、家族から届いたハガキの返事を書いてもらったりと、やり取りができる様、支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや匂い、温度など不快と感ずるものを排除し、快適に生活が送れるよう努めている。トイレや居室など混乱を起こさないよう分かりやすく表示している。花や季節の制作物などを展示し、ゆっくりとくつろげる空間を提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席、ソファ、和室があり、一人になれる空間も、入居者様同士が仲良く会話できる空間も作っている。和室で横になられたり、ご自分の席で外を眺めたり、ゆっくりと過ごしていただける環境作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等、昔から使い慣れた物を使用している。居室にご主人の位牌や写真を飾られたり、テレビやご家族の写真を貼るなど、居心地良く過ごせる様になっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等、分かりやすく表示し、リビング、廊下、浴室、トイレなどに手すりが設置され、安全に生活が送れるよう配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない